

1 学校運営の中期目標

【視点 学力の向上】

- 平成28年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を平成24年度より向上させる。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を平成24年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を平成24年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成28年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を平成24年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、平成24年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を平成24年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、平成24年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、平成24年度より向上させる。（カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）
- 平成27年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、平成24年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子ボール投げの平均の記録を、全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成27年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合を100%にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成27年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合を、平成24年度より向上させる。（ガバナンス改革関連）

【視点 教職員のICT活用能力の向上】

- 平成26年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中にICTを活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成26年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒にICT活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成26年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務にICTを活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を100%にする。（マネジメント改革関連）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- 平成 26 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）
- 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を 75%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を 75%以上にする。（カリキュラム改革関連）

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 平成 26 年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、85%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、35%以上にする。（カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）
- 平成 25 年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、80%以上にする。（カリキュラム改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- 平成 25 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子ボール投げの平均の記録を、全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 25 年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合を 90%以上にする。（カリキュラム改革関連）
- 平成 25 年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合を、80%以上にする。（ガバナンス改革関連）

【視点 教職員の I C T活用能力の向上】

- 平成 25 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中に I C Tを活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 80%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成 25 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒に I C T活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を 80%にする。（マネジメント改革関連）
- 平成 25 年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務に I C Tを活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を 80%にする。（マネジメント改革関連）

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

- 家庭での自主学習習慣の定着に課題を残したものの、学校元気アップ地域本部と連携し、テスト前学習会等を目標以上に充実させることができた。
- 全国学力・学習状況調査については、平均正答率は全ての教科において全国平均を上回り、平均無解答率は全ての教科において全国平均を下回るなど、一定の成果を達成することができた。

【視点 道徳心・社会性の育成】

- 道徳教育や教育相談活動のさらなる充実を図り、生徒が心豊かに育まれる教育環境の整備に努める必要がある。
- 保護者・地域・関係諸機関と連携した防災教育や校内緑化活動の充実を通して、生徒の地域社会の一員としての自覚を促すなど社会性の育成に取り組むことができた。

【視点 健康・体力の保持増進】

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子の平均記録は全ての項目において全国平均を上回ったものの、男子の平均記録は 50m 走と立ち幅跳び以外は全国平均を下回り課題を残した。望ましい運動習慣を身に付けさせるとともに、基礎体力を向上させる必要がある。
- 平成 26 年度新入学生からの給食全員喫食制を念頭に、保健養護・家庭科教育と連携しながら、食育の深化・充実に努める必要がある。

【視点 教職員の I C T活用能力の向上】

- 校内研修の充実や公開研究授業による成果発表のみならず、他都市の学校や地方自治体・地方議員・海外からの視察者を受け入れるなど授業を広く公開するとともに、教育センターが主催する新任教員研修会の講師や教育センターフォーラムのパネラーとして、本校の研究と実践の成果と課題を明らかにするなど、「大阪市スタンダードモデル」の確立に大きく貢献することができた。

大阪市立昭和中学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価〔最終反省〕（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>○平成26年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている（どちらかといえば、努めている）」と答える保護者の割合を75%以上にする。（カリキュラム改革関連）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【自主学習習慣の確立】</p> <p>放課後等に自主学習時間を設定し、地域コーディネーターやボランティアと協力して、生徒の自主学習を支援する。</p> <hr/> <p>指標・定期テスト前に、それぞれ3日以上自主学習会を開催する。</p> <p>・夏季休業期間中に、ボランティアの支援を受けての学習会を、3日以上開催する。</p>	A
<p>取組内容②【思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成に向けて、言語活動を通して指導と評価の一体化を推進する。</p> <hr/> <p>指標 全ての教科において、思考力・判断力・表現力を育成する取組を、計画通りに実施する。</p>	B
<p>取組内容③【習熟度別少人数授業の実施】</p> <p>生徒の学習到達度を把握し、生徒にわかる喜びを味わわせ、学ぶ意欲を育てる学習など個に応じた指導を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 対象教科において、習熟度別少人数授業を年間総授業時数の33%以上設定する。</p>	B
<p>取組内容④【特別支援教育の充実】</p> <p>「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をもとに、自立と社会参加に向けて、個に応じた指導を充実する。</p> <hr/> <p>指標 月に1回は、個に応じた指導について共通理解を図るとともに、年に1回以上指導方法に関わる校内研修会を開催する。</p>	B
<p>取組内容⑤【公開授業の実施】</p> <p>授業改善の取組を保護者・地域に周知する。</p> <hr/> <p>指標 月に1回以上、授業を公開する。</p>	B

取組内容⑥【授業研究を伴う校内研修の充実】	B
全学年で定期的に授業研究を実施し、指導力の向上に取り組む。	
指標 学期に1回以上実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>○平成 25 年度全国学力・学習状況調査において、「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答えた生徒の割合は 36.5%に留まり、全国平均（48.6%）を下回っている。その一方で、学校の授業時間以外に、1 日 3 時間以上または 2 時間以上 3 時間未満の間勉強すると答えた生徒が 60.4%（全国平均 36.5%）に達している。今後宿題を含め、復習の習慣が身に付くような課題の提示について検討する必要がある。（カリキュラム改革関連・学校サポート改革関連）</p> <p>○平成 25 年度末の校内アンケートにおける「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがある。」の項目において、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答えた生徒の割合は 73%（目標は 75%以上）に留まった。学年別にみると、3 年（85%）、2 年（67%）、1 年（67%）、特に「当てはまる」と答えた生徒の割合は、3 年（37%）、2 年（21%）、1 年（15%）となっていることから、3 年間の系統性をもたせたカリキュラムのもと、低学年の指導方法を、さらに充実させる必要があるといえる。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○平成 25 年度末の校内アンケートにおける「学校は子どもに基礎的な学力が身につくように努めている。」の項目において、「努めている。（どちらかといえば、努めている。）」と答えた保護者の割合が 82%（目標は 75%以上）に達し、目標を上回る結果となった。引き続き、指導方法の工夫・改善に努め、個に応じた指導の充実に取り組んでいく。（カリキュラム改革関連）</p> <p>【取組内容】について</p> <p>○取組内容①については、定期テスト前・夏季休業期間中はもとより、学期末懇談期間中の機会を捉えて、開催日数を計画以上に確保することができた。</p> <p>○取組内容②～⑥については、計画通りに実施することができた。</p>	
今後への改善点	
<p>【目標設定】について</p> <p>○教科から宿題を課し、かかさず点検していくとともに、早朝や放課後等に自主学習の機会を提供することを通して、復習を含めた自主学習習慣の確実な定着を図っていく。</p> <p>○入学後の早い時期から ICT 機器に親しませ、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会を多く持たせるよう工夫する。</p>	

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>○平成26年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「持っている（どちらかといえば持っている）」と答える生徒の割合を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、80%以上にする。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答える保護者の割合を、85%以上にする。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答える生徒の割合を、35%以上にする。（カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答える生徒の割合を、80%以上にする。（カリキュラム改革関連）</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【道徳教育の充実】</p> <p>人間としての生き方を考えさせる道徳教育を、道徳教育推進教師を中心に、全教職員の共通理解のもとで推進する。</p> <p>指標 学期に1回以上、道徳の時間の指導に関する校内授業研修を行い、共通理解を図る。</p>	B
<p>取組内容②【道徳教育の充実】</p> <p>生徒の内面に根ざした道徳性を育成するため、豊かな体験活動を推進する。</p> <p>指標 全学年を対象に、鑑賞行事を年に1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容③【キャリア教育の充実】</p> <p>社会的・職業的自立に向け、子どもの勤労観・職業観を育てるため、職業講話や職業体験学習など、子どもの発達段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育を推進する。</p> <p>指標 全ての学年において、年に1回以上、キャリア教育を実施する。</p>	B

<p>取組内容④【防災教育の推進】</p> <p>災害発生時に支援者となる視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成する。</p>	A
<p>指標 地域関係諸機関と連携した防災教育を、年に1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【美化・環境整備】</p> <p>生徒・保護者・教職員が、潤いのある校内環境を整えることを通して、情操豊かな生徒を育成する。</p>	A
<p>指標 生徒・保護者・教職員による校内緑化活動を、年に1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑥【部活動の充実】</p> <p>部活動を通して、役割と責任を自覚し、協力し合える態度を身につけさせるとともに、豊かな感性や情操をはぐくむ教育を推進する。</p>	A
<p>指標 部活動入部率を85%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>○平成25年度全国学力・学習状況調査において、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答えた生徒の割合は69.9%に留まり、全国平均（73.5%）を下回っている。しかしながら全国平均とのかい離△3.6%は、平成25年度の△7.0ポイントより改善されている。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答えた生徒の割合が75%（目標は80%以上）に留まり課題を残した。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」の項目において「対応してくれる（どちらかといえば対応してくれる）」と答えた生徒の割合が66%（目標80%以上）に留まり課題を残した。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「地震や台風などの場合の対応については、生徒や保護者に行動マニュアルが知らされている」の項目において、「知らされている（どちらかといえば、知らされている）」と答えた保護者の割合が87%（目標85%以上）に達し、目標を上回る結果となった。（カリキュラム改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「保護者や地域の人々といっしょになって学習や作業をすることがある」の項目において「ある（どちらかといえば、ある）」と答えた生徒の割合が46%（目標35%以上）に達し、目標を上回る結果となった。（カリキュラム改革関連・ガバナンス改革関連）</p> <p>○平成25年度末の校内アンケートにおける「私は部活動に積極的に取り組んでいる」の項目について、「取り組んでいる（どちらかといえば取り組んでいる）」と答えた生徒の割合が82%（目標80%以上）に達し、目標を上回る結果となった。（カリキュラム改革関連）</p> <p>【取組内容】について</p> <p>○取組内容①～③、⑤～⑥は、計画通りに実施することができた。</p> <p>○取組内容④は、学期に1回は、地域関係諸機関と連携した防災教育に取り組むとともに、校内避難訓練や国語科の指導を通して、防災・減災意識の向上を図ることができた。</p>	

今後への改善点

【目標設定】について

- キャリア教育をさらに深化・充実させるとともに、実施時期についても十分に検討を加え、生徒に夢や希望を持たせ、自らの生き方について主体的に判断し、行動する資質や能力を養わせる教育を推進する。
- 「命や人権の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」と生徒が実感できるよう、全校集会・学年集会での講話や道徳の時間の指導をさらに充実させる。
- 「学校いじめ防止基本方針」を策定し、全ての教職員に「いじめ」を見抜く鋭敏な感覚を養わせるとともに、生徒に個別の教育相談やアンケート等を定期的実施することを通して、「先生はいじめや校内暴力など私たちが困っていることについて対応してくれる」と生徒が実感できる学校づくりに努める。

大阪市立昭和中学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価〔最終反省〕（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 ○平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子ボール投げの平均の記録を、全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連） ○平成25年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取る生徒の割合を90%以上にする。（カリキュラム改革関連） ○平成25年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答える教職員の割合を、80%以上にする。（ガバナンス改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【体力向上への支援】 望ましい運動習慣を身につけ、基礎体力の向上を図るようにする。	B
指標 毎回の授業において、腕立て・腹筋・スクワットなどの補強運動を行う。	
取組内容②【食育】 成長期にある生徒が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう食育を推進する。	B
指標 月に1回以上、食育通信を配付する。	
取組内容③【健康な生活習慣の確立】 心身の健康に興味を持ち、自ら管理できる能力をはぐくむ教育を推進する。	B
指標 年に10回以上、保健だよりを配付する。	
取組内容④【健康な生活習慣の確立】 家庭や地域とともに、子どもの健全育成を図る取組を推進する。	B
指標 関係機関・保護者とともに薬物乱用防止教室を年に1回以上開催する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ○平成25年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における女子ボール投げの平均の記録は13.03mとなっており、全国平均12.97mを上回った。（カリキュラム改革関連） ○平成25年度末の校内アンケートにおいて栄養バランスのとれた昼食（家庭弁当や学校給食）を取っていると答えた生徒の割合が75%（目標90%以上）に留まり課題を残した。（カリキュラム改革関連） ○平成25年度末の自己評価において、「保健・健康に関して家庭や地域の保健関係機関との連携を図っている」の項目について「図っている（どちらかといえば図っている）」と答えた教職員の割合が100%（目標80%以上）に達し、目標を上回った。（ガバナンス改革関連） 【取組内容】について

○取組内容①～④は、計画通りに実施することができた。
今後への改善点
【目標設定】について ○取組内容①～④のさらなる深化・充実を通して、健康・体力の保持増進に資する教育を推進する。

大阪市立昭和中学校 平成25年度 運営に関する計画・自己評価〔最終反省〕（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 教職員のICT活用能力の向上】 ○平成25年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「授業中にICTを活用して指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を80%にする。（マネジメント改革関連） ○平成25年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「生徒にICT活用を指導する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教員の割合を80%にする。（マネジメント改革関連） ○平成25年度末の「文部科学省 教育の情報化の実態等に関する調査」における「校務にICTを活用する能力」の項目において、「できる（わりにできる・ややできる）」と答える教職員の割合を80%にする。（マネジメント改革関連）	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【各種研究・研修の充実】 教職員のICT活用能力の向上のため、学校教育ICT支援員・授業づくり支援員の協力のもと、校内研修を充実させる。 指標 全教員が、教材研究と併行してiPadの使用方法を習得するなど校内研修に努める。	A
取組内容②【公開授業の実施】 大阪市スタンダードモデルの確立に向け、授業を積極的に公開する。 指標 全教員の半数以上が、ICTを活用した公開研究授業に取り組む。	A
取組内容③【ICTを活用した教育の推進】 生徒にICT活用を指導する能力を高める。 指標 ICTを活用し、生徒が主体的に発表する場を、複数の教科において設ける。	B
取組内容④【組織運営】 校務の効率化・省力化を進め、教職員の負担の軽減を図る。 指標 校務にICTを活用するための研修を、学期に1回以上実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標】について ○平成25・26年度の2年間で、すべての教職員がICTを活用した公開研究授業に取り組むべく、研究と実践に励んでいる。【年度目標】3項目については、年度末に検証結果を明らかにする。 【取組内容】について ○取組内容①・②は、校内研修の充実や公開研究授業による成果発表のみならず、他都市の学校や地方自治体・地方議員・海外からの視察者を受け入れるなど授業を広く公開するとともに、教育センターが主催する新任教員研修会の講師や教育センターフォーラムのパネラーとして、

本校の研究と実践の成果と課題を明らかにするなど、「大阪市スタンダードモデル」の確立に大きく貢献することができた。

今後への改善点

【目標設定】について

- 授業の目標を達成するため、生徒の興味・関心を喚起し、思考力・判断力・表現力を高める有効な手段として、ICT を効果的に活用する方途について、さらに研究を進める。
- 校務の ICT 化については端緒についたばかりである。次年度以降さらに ICT 機器の利用頻度を高め、効率化と省力化に努める。

平成 2 5 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立昭和中学校 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標ごとの評価

年度目標：
年度目標：
<div>・ ・ ・ ・</div>

3 今後の学校運営についての意見

--

全国学力・学習状況調査の結果から明らかになった現状

1 平成24年度の調査結果の概要

	国語		算数・数学		理科	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題
平均正答率(%)	76.6	63.8	67.9	53.6	59.1	49.4
平均正答数(問)	24.5／32	5.7／9	24.5／36	8.0／15	5.9／10	7.9／16
平均無解答率(%)	2.9	3.1	1.7	13.7	13.4	6.3

【添付資料】

- 教科・区分ごとの正答数分布のグラフ
- 領域・観点・形式ごとの正答数分布のレーダーチャート
- 質問紙調査の主な結果
 - ・ 児童生徒質問紙調査の「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目
 - ・ 同調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目
 - ・ 同調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目
 - ・ 同調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目
 - ・ 同調査の「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目
 - ・ 同調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目
 - ・ 同調査の「国語・算数（数学）・理科の授業がよくわかりますか」「国語・算数（数学）・理科は好きですか」の項目

2 自校の取組の成果と課題

調査項目		成果と課題
国語	A問題【主として「知識」に関する問題】	「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」の5つの評価の観点すべてにおいて大阪府を上回っている。しかし、「話す・聞く能力」については全国平均を少し下回っており、基礎的な言語力の定着が課題である。
	B問題【主として「活用」に関する問題】	A問題と同様の傾向がある。「国語への関心・意欲・態度」と、「話す・聞く能力」、「書く能力」の3つの観点において全国平均を下回っており、「表現」や「理解」を基礎となる言語力の定着が課題である。
算数・数学	A問題【主として「知識」に関する問題】	学習指導要領の領域である、数と式、図形、数量関係と、評価の観点の数学的な表現・処理、数量・図形などについての知識・理解のすべての項目において平均正答率が大阪府および全国の平均正答率を上回っている。
	B問題【主として「活用」に関する問題】	A・Bともに全国平均を上回っており、習熟度別少人数授業や、ICTの活用をはじめとする諸取組みが奏功し始めている。一方で数学に対する興味・関心は依然として高いとは言えない。主体的に学ぶ生徒を育成するために、指導法の工夫をさらに進める必要がある。
理科		主として「知識」に関する問題10問、主として「活用」に関する問題16問の平均正答率が、全てにおいて、大阪府および全国の平均正答率を上回っている。今後は

	<p>観察や実験の結果をもとにした考える授業など、さらに指導方法を工夫する必要がある。</p>
<p>児童生徒質問紙</p>	<p>「毎日朝食を食べていますか」という質問には、「している」が 86.2%「どちらかといえばしている」が 10.8%で、合計 97%となっている。食事をとらずに登校する生徒が 3%在籍する。「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」という質問に、「あてはまる」と答えた生徒は 76.9%で、全国の 68.8%を 18.1%上回っている。粘り強く取り組み、成就感や達成感を味わわせる取組を引き続き推進していく。</p>
<p>学校質問紙</p>	<p>平成 22 年 1 月に電子黒板が 8 台配置され、電子黒板を活用した授業づくりの研究に成果を残した。さらに平成 24 年度中に配備される iPad を活用した授業づくりを着実に進めることができるよう、情報収集ならびに研修に努める。</p>
<p>その他</p>	<p>「自分には、よいところがあると思いますか」という質問には、「当てはまる」が 35.4%で、全国の 20.4%を 11.4%上回っている。自分を大切に思い、自分に誇りを持つ心が高いという結果が現れている。</p>

全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の結果から明らかになった現状

1 平成25年度の調査結果の概要

	種目別平均									合計 得点
	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	持久走 (秒)	20mシャ トルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	
男子	31.72	29.14	47.07	54.62	378.31	—	7.79	201.07	21.38	45.34
女子	24.41	23.79	47.31	47.52	287.59	—	8.69	172.48	12.69	50.31

2 自校の取組の成果と課題

<p>体育的活動における取組の成果と課題 <u>評価（ B ）</u></p> <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学年において、球技大会を実施した。その結果、生徒がクラスのチームワークを保ちながら意欲的に参加することができた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事日程の都合上、水泳大会が1年生のみの開催となった。年間行事の見直しが必要である。
<p>保健体育科の授業における取組の成果と課題 <u>評価（ B ）</u></p> <p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学期を中心に、持久力の向上に取り組んだ。その成果を検証するため、本校に隣接する桃ヶ池公園の周回道路を利用して、校内持久走記録会（男女とも4500m）を実施した。なお、本校は、上記調査結果のとおり、「持久走」の平均が男女とも全国平均を上回っている。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子ボール投げの調査結果が全国平均を下回り課題を残した。

評価 A：達成できた B：概ね達成できた C：あまり達成できなかった
D：達成できなかった

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 平成 24 年度の調査結果の概要

区分	結果
① 力行為の発生件数(件)	0
② いじめの認知件数(件)	0
③ いじめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	0
④ ・中学校における不登校児童生徒数(人)	3
⑤ 等学校における長期欠席生徒数(人)	—
⑤高等学校における中途退学者数(人)	—

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	平成 24 年度は、暴力行為はみられない。引き続き、家庭・地域・関係諸機関と連携しながら、生活指導部を中心に、全教職員が問題行動に機敏かつ組織的に対応できる体制の維持に努める。
②いじめの状況等	平成 24 年度は、いじめは確認されていない。しかしながら、いじめはどの学校でも起こる可能性があるという自覚のもと、全教職員が、いじめを見抜く鋭敏な感覚を身につけることができるよう、指導力の向上に努める。
③小・中学校における不登校の状況等	完全不登校の生徒はみられない。欠席しがちな生徒については、校外学習や学校行事、定期テスト等の機会をとらえて、担任を中心に丁寧に働きかけ、登校を促すことができている。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑥ 等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること